



2015年4月8日

各 位

興和株式会社
興和創薬株式会社

ピタバスタチンの糖代謝に対するメタ解析結果を発表

**ピタバスタチンは高コレステロール血症患者・心血管病ハイリスク患者に
おいて、糖代謝に悪影響を与えなかった**

～第83回欧州動脈硬化学会～

興和株式会社（本社：名古屋市中区、代表取締役社長：三輪芳弘、以下「興和」）は、2015年3月22日～25日にイギリス・グラスゴーで開催された「第83回欧州動脈硬化学会（83rd EAS Congress）」のポスターセッションにおいて、高コレステロール血症治療剤「ピタバスタチン」（日本での販売名：リバロ錠／リバロOD錠）の糖代謝に対するメタ解析の結果が発表されましたことをお知らせいたします。

本発表は、国内外の非糖尿病患者におけるピタバスタチンのランダム化比較試験をメタ解析することにより、ピタバスタチンの空腹時血糖、HbA1c、糖尿病新規発症への影響を検討したものです


その結果、対照群(プラセボ、または他のスタチン系薬剤投与)と比較して、ピタバスタチンは、空腹時血糖 及びHbA1cに悪影響を与えませんでした。さらに、糖尿病の新規発症を増加させることもありませんでした。

研究代表者のKausik K. Ray先生（Imperial College London）は、「近年、スタチンが糖尿病を誘発するという議論がありますが、今回のメタ解析の結果から、少なくともピタバスタチンはプラセボや他のスタチンと比較して糖代謝を悪化させることなく、脂質改善作用を示すことがわかりました。」と述べておられます。

■学会で発表された演題

学会名	第83回欧州動脈硬化学会(83 rd EAS Congress)
場所	イギリス・グラスゴー
学会会期	2015年3月22日～25日
演題名	EFFECTS OF PITAVASTATIN THERAPY ON GLUCOSE, HBA1C AND INCIDENCE OF DIABETES MELLITUS: A META-ANALYSIS OF RANDOMIZED CONTROLLED CLINICAL TRIALS IN NON-DIABETIC INDIVIDUALS ピタバスタチン服薬による血糖値、HbA1c、糖尿病発症への影響：非糖尿病患者におけるランダム化比較臨床試験のメタ解析
発表者	A.J. Vallejo-Vaz (St George's University of London)

以上

 興和株式会社	広報第二部(東京)	東京都中央区日本橋本町 3-4-14 TEL:03-3279-7392
	本店(名古屋)	名古屋市中区錦 3-6-29